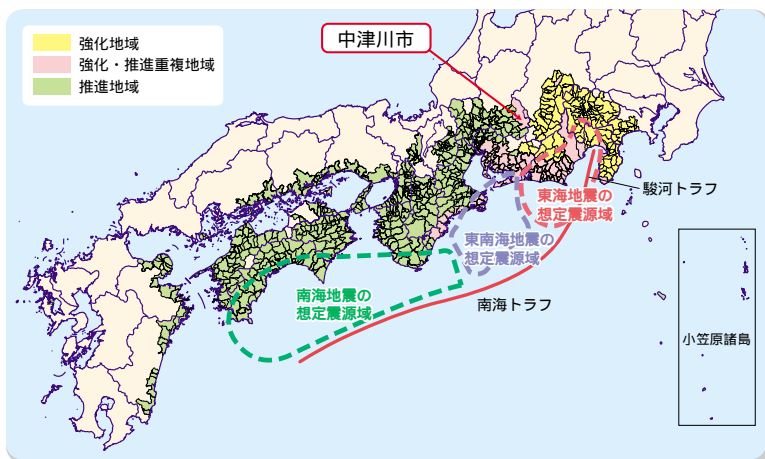


中津川市と海溝型地震

東海・東南海・南海地震の想定震源域と地震防災対策強化地域・推進地域

国・県は、東海・東南海・南海地震の想定震源域について下図のように予測し、それぞれの地震で大きな被害が発生すると考えられる地域を「地震防災対策強化地域・推進地域」に指定し、地震対策の強化を図っています。中津川市は、県内では唯一、強化地域と推進地域の両方に指定されています。



地震防災対策強化地域とは

東海地震が発生した場合に著しい地震災害が発生するおそれがあるため、特別な地震防災対策を講じる必要がある地域です。

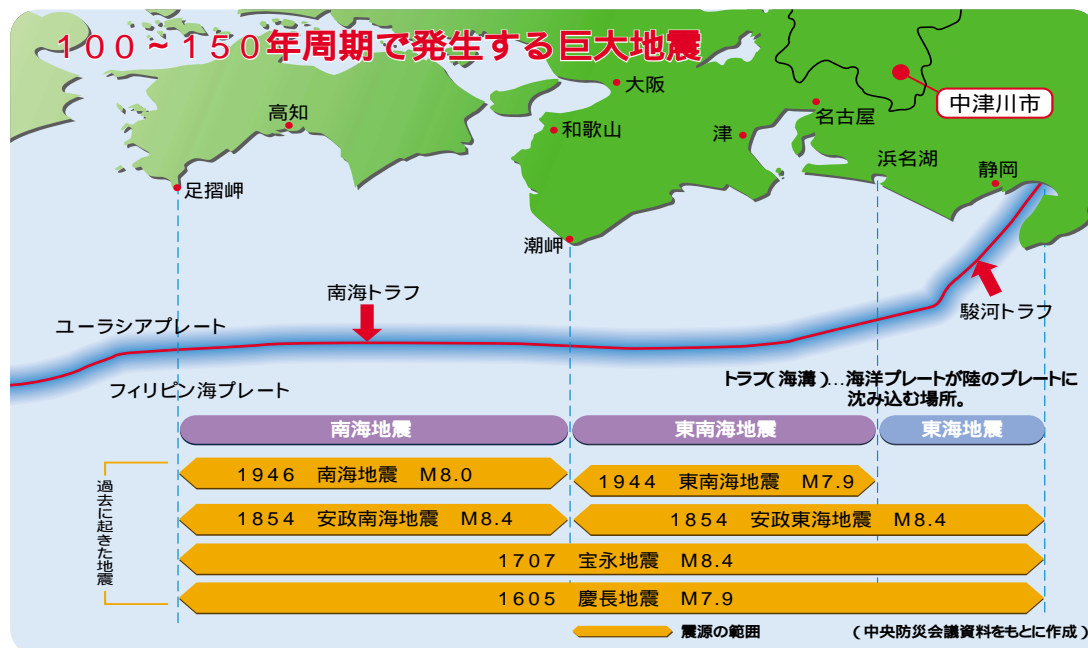
地震防災対策推進地域とは

東南海・南海地震が発生した場合に著しい地震災害が発生するおそれがあるため、特別な地震防災対策を講じる必要がある地域です。

東海地震と同時に発生する可能性も

下図のように、東南海、南海地震、さらに東海地震は、これまでおよそ100～150年周期で繰り返し起きています。1854年の南海地震は、東海地震、東南海地震の同時発生から32時間後に発生。

今後10年以上、東海地震が発生しなかった場合には、再び同時に起こる可能性も指摘されており、国や関係する地方自治体が本格的な防災対策に乗り出しています。



東海地震に関する3つの情報

3つの情報を信号機に例えると

東海地震
観測情報

東海地震
注意情報

東海地震
予知情報

東海地域で観測されたデータに次のような異常があるときに out されます

東海地震とは関連がないと判断できる場合や、しばらく様子を見守る必要がある場合に出される情報です。

東海地震の前兆現象である可能性が高まった場合に出される情報です。

東海地震が発生するおそれがあると認められた場合に出される情報です。

直後に警戒宣言が発せられます。

注意情報が出ると、社会状況はどうなるの？

国は、東海地域への応援部隊の準備に取りかかります。中津川市は、学校からの児童・生徒の帰宅や、介護が必要な人たちの避難の準備、旅行の自粛などの広報を行います。

私たちはどうすればいいの？

まずは、東海地震観測情報の段階から、テレビ・ラジオ等で東海地震の情報を確認しておきましょう。家の中の家具が転倒したり、逃げ道をふさがないか点検することが必要です。非常持ち出し品の中身についても、必要なものはそろっているか再点検することが必要です。避難が必要な場合に備え、避難場所、避難路の確認が必要です。とにかく、慌てないことが大切です。警戒宣言が出てても冷静でいられるよう心の準備も大切です。

じゃあ、警戒宣言が出たらどうすればいいの？

警戒宣言が出されると、特定の地域では、交通規制や鉄道の運行停止など、様々な社会的対応がとられます。

各家庭では

土砂崩れのおそれがある場合などは、必要に応じて避難しましょう。火事を防ぐために、なるべく火は使わないようにしましょう。ガスの元栓を締め、不要な電気のコンセントは抜いておきましょう。

さらに自主防災組織では

地域内での情報収集や伝達、要介護者の安全確保、防災倉庫の防災用資機材の点検などが必要です。

ここで
注意!

東海地震の予知は必ずできるとは限りません！

前兆現象が的確にとらえられた時に可能とされるものです。突発的に東海地震が発生することも考えられるので、日ごろ家庭での耐震性など防災対策のチェックと、定期的な訓練が必要です。